2026 年 11 月 4 日
日本ハム株式会社

2027 年 3 月期第 2 四半期 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2026 年 11 月 2 日 月曜日　17:00～18:00

1. FY2027/3 通期計画について
質問：通期事業利益を 610 億円から 500 億円の確度は？
回答：現在想定し得るリスクを最大限見積もり下方修正した。現実的なベースラインとして位置づけている。

2.加工事業の FY2027/3 の計画について
質問：加工事業の通期事業利益を 120 億円から 60 億円へ下方修正した背景は？
回答：トップラインの拡大が遅れ粗利益を確保できないことや、電燃料、コストなどが想定以上に悪化することを見込んだ。このコスト高を吸収するには時間を要すると考え、下方修正した。

質問：国内加工事業の上期数量動向と下期に向けた見通しは？
回答：上期はコンシューマ商品で一定の成果が出た一方、コンビニや業務用商品の価格競争が厳しく、数量や利益が伸び悩んだ。下期に向けては、コンシューマ商品の価格改定や、業務用における新商品の導入がすでに始まっており、数量や収益性は上期と比較し改善する見込みである。

３.食肉事業の FY2027/3 の計画について
質問：豪州事業の減益要因と今後の見通しは？
回答：生体価格の想定を超える高騰が続いたことや、中国等へのセーフガード発動により需給環境が変化し、販売価格が低迷したことが要因である。
下期も生体価格が高止まることを見込むが、条件次第では３Q 以降に下落に転じる可能性も残す。

質問：国内食肉事業の現状と利益見通しは？
回答：国産鶏肉や豚肉における生産成績や価格転嫁で、飼料価格や物流費等のコスト上昇をカバーしているが、下期はコスト影響を一定程度受ける見込みである。引き続き内部努力やバリューチェーンの強みを活かし、価格転嫁を進め利益確保に努める。

４.営業キャッシュフロー・棚卸資産について
質問：営業キャッシュフローの悪化と棚卸資産増加の背景や今後の対応は？
回答：利益が当初計画に届いていないことに加え、輸入食肉を中心に在庫金額が増加したことが主な要因である。主に牛肉単価の上昇によるもので、不良在庫や回転率が悪化しているわけではない。今後は単価上昇分を利益に変えつつ、規律を以て在庫回転率を管理していく。

以上